オーストリア綺想小説コレクション

全三巻

垂野創一郎……編訳

国書刊行会

Kollektion Phantastische Österreich

世界の終りと葉巻型の巨大シェルター、
歌う魚が棲む洞窟、十八世紀貴族の転生譚。
天衣無縫な想像力で驚異と神秘を描く
オーストリアの豊饒な幻想世界を紹介。

第1回配本

廃墟建築家

ヘルベルト・ローゼンドルファー

二〇二四年一一月刊　予価三八〇〇円（税別）

ISBN-978-4-336-07680-9

編訳者……垂野創一郎（たるの　そういちろう）

一九五八年香川県に生まれる。主な翻訳に ペルッツ『夜毎に石の橋の下で』、マイリンク『ワルプルギスの夜』、ボルヘス／フェラーリ『記憶の図書館　ボルヘス対話集成』などの他に編訳書『怪奇骨董翻訳箱　ドイツ・オーストリア幻想短篇集』（以上、国書刊行会）がある。

千年の歴史を誇り、最盛期には広大な領土を保有していたハプスブルク帝国。しかし第一次世界大戦が終わると、それは中欧の小共和国と化してしまった。いままで存在しているとばかり思っていた「帝国」は空疎な幻だったのか。しかし失われた帝国への想いは、その後も見果てぬ夢として、もともとあった奇矯さを誇張されながら生きながらえ、ある種の作家の尽きせぬ霊感の源となった。そこでは世界は迷宮でなければならない。煩雑な官僚制度が支配していなくてはならない。モーツァルトが絶えず奏でられてなくてはならない。何より、その日その日を愉快に暮らすために存在する巨大な遊園地でなければならない……。このコレクションは、今まであまり知られていなかったそうした作家・作品を精選し、オーストリアの豊饒な幻想世界をその一端なりとも紹介しようとするものである。

……垂野創一郎

四六判変型・上製・スリーブケース
平均予価……三四〇〇円
垂野創一郎……編訳
装幀……コバヤシタケシ

国書刊行会
〒一七四－〇〇五六　東京都板橋区志村一－一三－一五
TEL：〇三－五九七〇－七四二一
FAX：〇三－五九七〇－七四二二
https://www.kokusho.co.jp

小社の刊行物は注文制です。お近くの書店にお申込みください。

1

Der Ruinenbaumeister, 1969

廃墟建築家

ヘルベルト・ローゼンドルファー

語りと夢の交響曲

一九三四年イタリア、ボルツァーノ近くの町グリースで生まれる。一九三九年にミュンヘンに移住。舞台美術家を目指したのち法律家に転身し、ミュンヘンの区裁判所判事およびナウムブルクの上級地方裁判所判事を歴任。主な小説作品には『廃墟建築家』（六九）、『中国の過去への手紙』（八三）、『黄金聖者あるいはコロンブスがヨーロッパを発見する』（九二）があり、他に歴史書や伝記などにも健筆をふるう。また作曲も手がけた。二〇一二年没。

世界の終わりを目の当たりにした語り手は、廃墟建築家の設計した葉巻形の巨大地下シェルターに誘いこまれる。そこで彼が夢みるのは、カストラートの七人の姪が代わる代わる語る不思議な物語。もしかしたらこちらが現実で、葉巻シェルターのほうが夢ではあるまいか。『サラゴサ手稿』風の語りの入れ子構造を持ちながら、次々繰りだされる挿話の渦は、その枠さえなしくずしに解消してしまう。音楽への愛にあふれ、オーストリア・バロックの粋をこらした魔術的遠近法。……第1回配本

ISBN-978-4-336-07680-9

2

Der Baron und die Fische, 1966

男爵と魚

ペーター・マーギンター

一九三四年ウィーンに生まれる。ウィーン商工会議所秘書、トルコおよびイギリスのオーストリア大使館付文化担当官、外務省部局長を経てロンドンのオーストリア文化事業センター長に就任。一九六六年に『男爵と魚』で小説家デビュー。主な長篇に探偵神秘小説（クリミスクリム）の副題を持つ『死んだ叔父』（六七）、『ケーニッヒルーフェン』（七三）、『万事休す』（八三）などがある。ウォルター・デ・ラ・メアなどの翻訳でも知られる。二〇〇八年没。

驚異の旅・驚異の博物誌

野党カワウソ党の陰謀で故国を追われた魚類学の大家クロイツークヴェルハイム男爵。いざ逆襲とばかりに、ウィスキー樽の中で六百年前から生きているスコットランドの先祖の加勢を得て、気球戦団を率いてウィーン征伐に出発したはいいけれど、途中で思わぬアクシデントに見舞われてしまった。だがそれは世紀の発見への入口でもあった。神と人、獣と人が自在に交わる博物学の楽園で、ヨーロッパをかけめぐり、ホムンクルスや天上界の存在をも巻き込む一大ページェントここに開幕。……第2回配本

ISBN-978-4-336-07681-6

3

Die Wiedergeburt des Melchior Dronte, 1921

メルヒオール・ドロンテの転生

パウル・ブッソン

東方との合一

レンズ職人の家に生まれたゼノン・フォラウフは前世を記憶していた。以前の彼は十八世紀の田舎男爵の息子メルヒオール・ドロンテであり、幼い頃、回教僧の蠟人形に命を救われていた。その後も折にふれて姿を見せる回教僧は、フランス革命のさなか、ついにメルヒオールと決定的に結びつく。そして現代のゼノン・フォラウフとして転生した今、己の本質もますます明瞭になるのだった。多様な異文化が渡来・衝突・融和する東欧の地ならではの諸教混淆ピカレスク神秘冒険小説。

一八七三年インスブルックに生まれる。グラーツで医学を修めたのち将校としてガリチアに赴任するも病を得て退役。一九〇〇年より当時オーストリアで最大の発行部数を誇った日刊紙「新ウィーン日報」の編集部員として世界を飛び回る。第一次世界大戦中は従軍記者として活躍。小説作品には英米でも高く評価された『メルヒオール・ドロンテの転生』（二一）の他に『炎の妖精』（二三）などがある。一九二四年没。

ISBN-978-4-336-07680-9